

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（泊3号炉）
（543）

2. 日時：令和5年6月26日 14時20分～14時30分

3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）

4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

天野安全管理調査官、宮本上席安全審査官、秋本主任安全審査官、

小野安全審査官、平本安全審査専門職

北海道電力株式会社：

原子力事業統括部 部長（審査・運営管理担当）、他8名

原子力事業統括部 部長（安全技術担当）※、他6名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

（1）泊発電所3号炉 残されている審査上の論点とその作業方針および作業スケジュールについて

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	はい原子力規制庁の宮本です。それでは泊3号機の残された審査上の論点とそれは作業補償及び作業スケジュールについてのヒアリングの方を開始したいと思いますので、
0:00:15	事業者の方から説明をお願いします。
0:00:18	はい。北海道電力の金岡です。資料の1をもとにスケジュールについて説明させていただきます。
0:00:25	17ページを開いてください。
0:00:29	あと17ページ、こちらは本文に関わるところでございます。
0:00:35	変更箇所については右に縦線を入れているところが今回変更したところでございます。
0:00:42	前書きのところの部分の前書きのところになりますが、今回クリティカルパスの周期を2024年4月に見直してございますので、その理由を更新してございます。
0:00:55	その他、作業方針に関わる変更はなく、作業状況について最新の新審査進捗を反映した見直しを行ってございます。
0:01:05	続きまして36ページを開いてください。
0:01:09	ここからがスケジュールになります。
0:01:13	このページなんですけれども、
0:01:15	通しナンバーの2番と3番基準地震動について実績を反映した見直しを行ってございます。
0:01:22	あと吹き出しの部分、ございますけれども、全般精査いたしまして、情報が陳腐化したものは削除したり、あとは表現を適正化した見直しを行ってございます。
0:01:32	通しナンバーの7番になります。こちらにつきましては、基準津波の組み合わせ評価に関する項目です。
0:01:40	こちらは、6月21日にヒアリングを実施しておりましてその時の指摘事項を踏まえまして、
0:01:48	次回の審査会合で当社の考えをご理解いただくために資料作成期間を考慮するとともに、あとはヒアリングを1回追加していただくということで、
0:01:58	審査会合時期を7月の18日の週2参集スライドさせていただいてございます。
0:02:05	これに伴いまして津波関連は、
0:02:07	工程を関連するところはすべて参集スライドしてございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:12	続きまして 37 ページを開いてください。
0:02:20	と 37 ページ、こちらは衛藤火山通しナンバーの 12 番からは火山関連のスケジュールとなっておりますこちらは当社の作業進捗を踏まえまして、
0:02:32	全般、参集スライドをするというような見直しを行っております。
0:02:38	続きまして 38 ページをご覧ください。
0:02:45	こちらからプラント側になります。通しナンバーの 21 番、対津波設計方針に関わる工程でございます。
0:02:53	こちら耐津波設計の解析工程ですけれども、
0:02:58	入力津波に関する解析工程が、
0:03:02	基準津波の波源の変更に伴いまして、追加解析が必要になったので、工程を 3 ヶ月延ばした見直しを行っております。
0:03:12	このため関連する後工程が約 3 ヶ月スライドしております、クリティカルパスの収益を 2024 年 4 月に、今回見直しをさせていただきます。
0:03:24	また、この通しナンバー 21 番耐津波設計方針につきましては、資金のヒアリング状況を踏まえまして、審査の優先順位ですとか、資料の準備状況を踏まえまして、
0:03:35	工程を最新刊見直しを行っております。
0:03:41	あとその下通しナンバー 22 番防潮てに関わる場所ですけれども、
0:03:46	津波高さの変更によりまして、防潮ての構造成立性評価の見直しに見直しに伴い、評価期間を今回約 3 ヶ月延長しております。
0:04:00	これに伴いまして、関連する後工程をスライドするというような見直しを行っております。
0:04:09	最後 39 ページをご覧ください。
0:04:16	39 ページアクセスルートに関わる項目です。
0:04:19	赤い太線こちらがクリティカルパスのをお示しております。津波に津波に関わる場所、またこちらは防潮てに関連する、
0:04:31	クリティカルパスを赤い太線で示している場所ですけれども、
0:04:35	上流の膨張ての高騰、防潮ての工程が伸びることでクリティカルパスが 2020 年 4 月という見直しを行っております。
0:04:46	この 2024 年 4 月の最後の審査会合では、クリティカルパスの上流であります地盤斜面の安定性評価の結果、三野。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:55	説明を行うということでこれだけ切り出した切り分けたようなスケジュールを今回設定してございます。
0:05:04	主な変更点は以上となります。
0:05:07	はい、ありがとうございました。質問というか、一応、入力津波が後ろにずれたせいで全体的に3ヶ月延びたと。で、
0:05:17	ちょっと確認は
0:05:20	入力津波に関しては、結局オンスケで御ちゃを本リスクでやっていたものが基本的には、やはり駄目だったというか、やり直しが発生した。
0:05:31	なので、全体的にそこは、並行審査をやってる上では仕方なかったというか、事業者の判断としてそうなったというそういう理解でいいですか。
0:05:42	はい北海道電力の金岡です。はい。今、コメントをいただいた通りでして、
0:05:49	入力津波が変わることによって解析やり直しになったと、当社のオンリーすくうがやっていたものが、
0:06:01	では、対応できなかったということで今回スケジュールが延びてございます。以上です。規制庁+わかりました
0:06:09	これまでのこの解析モデルの話、入力津波のもともとの予定っていうのは、
0:06:18	確かもっと3ヶ月ぐらい早く
0:06:21	なってたんですね。もともとだから、本当はR I Sをリスクのところの時間ってすごくもうちょっと短かったのは、全体的に入力津波を後ろに後ろに行って、全体的に後ろに、
0:06:32	言ったの当初のリスクはそれほど大きくなかったんだけど工程の全体的な流れの中で、
0:06:40	リスク自体が全部そろってしまったってそういうことですかね。
0:06:49	サイトウ電力の高橋です。入力津波の方も、ある程度もう基準津波の方が、想定される波源を使って御リスクでいろいろや、
0:07:00	最後、その結果が、これでいいねって言ったらあとはもう資料を2作成っていうだけの準備をしてたんですけども、ちょっと根本的に波源の方の、大賀川、
0:07:13	というような状況になって、ずっとそのを入力津波側で、そこを吸収できるというふうにやってたんですけど、最終的にリスクが発現したというようなことになってしまいました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:26	はい、わかりましたそれとちょっともう1回話は全然変わると火山灰が伸びた理由って何でしたっけ。
0:07:36	火山影響評価、はさ、
0:07:38	ハザード側の火山影響評価ですけども、
0:07:43	こちらは予定通り当社として準備を進めていたんですけども当社の作業進捗がですね、遅れまして、資料作成等の作業進捗が遅れまして、
0:07:55	今回3週、見直すというような状況となっております。
0:08:02	はいわかりました。じゃあ他、確認事項あれば、
0:08:06	いいですかね。じゃあこれでヒアリングの方を終了したいと思いますありがとうございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。